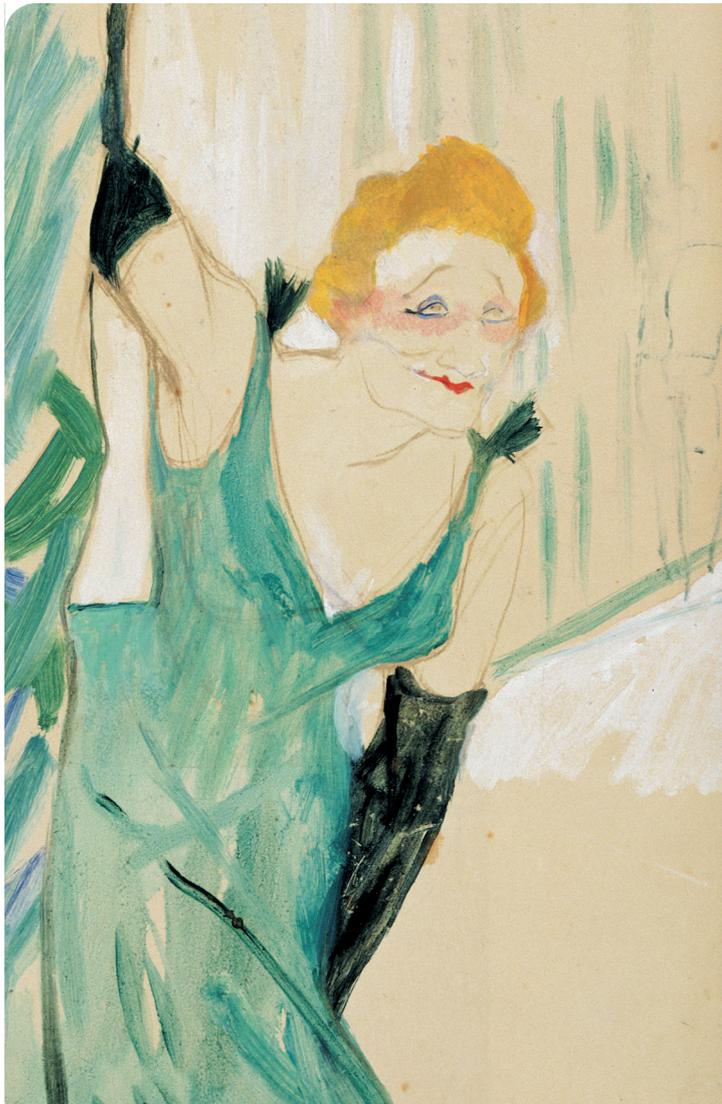


プレスリリース

ミディ・ピレネー地方の画家とミュージアム

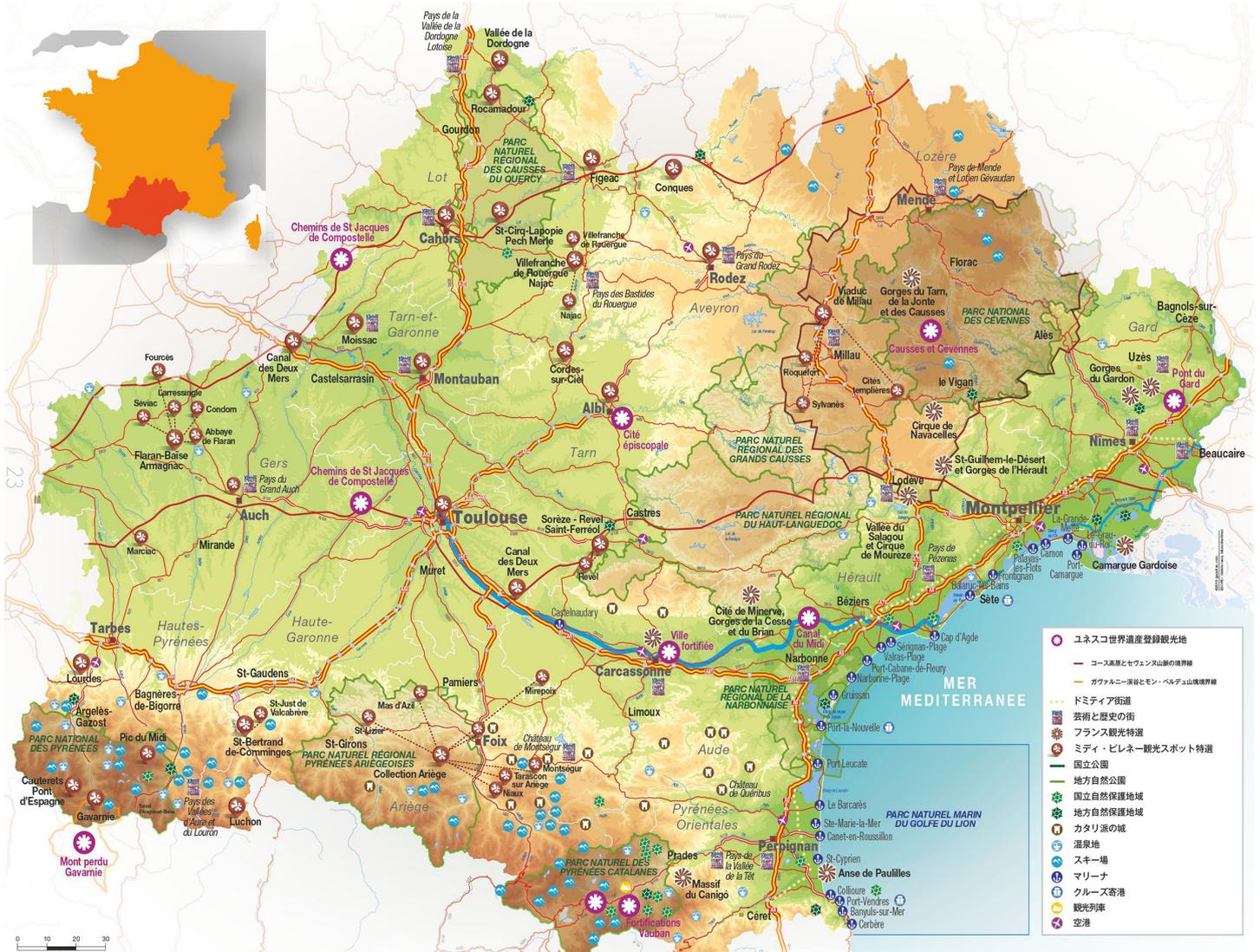


スラージュ、トゥールーズ=ロート
レック、アングル …:

ミディ・ピレネー地方は、偉大な画家
たちのパレットの上に

一人目は、「黒を超えた黒」の異論なき巨匠。二人目
は、19世紀パリ・ボヘミアニズムの特権的な証人。三
人目は、作品と同様にバイオリンの腕でも知られてい
る画家。彼らに共通するものとは？ 彼らはミディ・ピ
レネー地方で生まれだということです。彼らに捧げら
れた素晴らしい美術館があなたを待っています。

LANGUEDOC
ROUSSILLON
LA RÉGION MIDI
PYRÉNÉES



ミディ・ピレネー地方の画家とミュージアム

目次

ミディ・ピレネー地方とは	P.3
見どころ	P.4
主要コレクション / 特別展	P.8
現代美術、明日の美術	P.12

ミディ・ピレネーとは

ミディ・ピレネー地方の特徴

フランス南西部、大西洋と地中海の間に位置するミディ・ピレネー地方 (Région Midi-Pyrénées) は、文化遺産と風景の豊かさにおいて驚くほどの多様性がある地方で、アリエージュ (Ariège)、アヴェロン (Aveyron)、オート・ガロンヌ (Haute-Garonne)、オート・ピレネー (Hautes-Pyrénées)、ジェール (Gers)、ロット (Lot)、タルン (Tarn)、タルン・エ・ガロンヌ (Tarn-et-Garonne) のそれぞれに特徴のある8つの県から成り立っています。行政区分の地方圏として、フランスで最も面積が広い地方となっています。ミディ・ピレネーには豊かな文化遺産とライフスタイルが共生しているとして定評があり、独創性とアイデアがある活気に満ちた地方となっています。行政中心地のトゥールーズは、フランス第2の大学都市、世界最大の飛行機メーカーであるエアバス社の工場がある欧州における航空技術の都となっています。

ミディ・ピレネー観光スポット特選

(Grands Sites Midi-Pyrénées)

ミディ・ピレネー地方が世界的に知られているのは、25の景勝地「観光スポット特選 (Grands Sites)」があることにもよります。ミヨール高架橋 (Viaduc de Millau)、天文台があるピック・デュ・ミディ (Pic du Midi)、ユネスコ世界遺産に登録されているガヴァルニー大圏谷 (Cirque de Gavarnie)、聖母マリア出現の巡礼地ルルド (Lourdes)、トゥールーズ＝ロートレック美術館がある町アルビ (Albi)、ヴァラントレ橋のある町カオール (Cahors) を始めとして、コンク村 (Conques)、ロカマドゥール村 (Rocamadour)、モワサック町 (Moissac) など…。

雄大な自然

フランスで日照時間が最も長い地方の1つであり (ミディ・ピレネー地方の日照時間は年間平均 2,000 時間)、この地方にはタルン渓谷 (Gorges

du Tarn)、アヴェロン渓谷 (Gorges de l'Aveyron)、ロット川流域 (Vallée du Lot)、ドルドーニュ川流域 (Vallée de la Dordogne)、ピレネー山脈 (Chaîne des Pyrénées) の最高峰など、変化に富んだ景観の広大なスペースがあります。ピレネー国立自然公園 (Parc National des Pyrénées) と4つの地方自然公園には、整備されたトレッキングコースが全長 3 万キロ。ミディ・ピレネー地方は、ハイキング、サイクリング、乗馬トレッキング、ウォータースポーツ、ミディ運河などでの河川ツーリズム、ピレネー山脈でのスキーや滑走スポーツを楽しんだりするには最適な地方です。

偉大な人物

ピエール・スラーージュ (Pierre Soulages)、アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック (Henri de Toulouse-Lautrec)、ジャン＝フランソワ・シャンポリオン (Jean-François Champollion)、ピエール＝ポール・リケ (Pierre-Paul Riquet)、ジャン＝オーギュスト＝ドミニク・アングル (Jean-Auguste-Dominique Ingres)、航空機のバイオニアたち。たくさんの偉人がミディ・ピレネーに遺した比類ない遺産は、彼らの偉業を通して今日も生き続けています。

ミディ・ピレネーのハイライト

ロックフォール・チーズ、フォアグラ、ケルシーの黒トリュッフ、サフラン、百を数える高品質の国家認証マークを持つ食品がミディ・ピレネー地方を発祥地としています。また、AOP ヨーロッパ原産地呼称認証を持つ 15 のワイン呼称があるというブドウ生産地であり、質の高い手工業の里でもあります。ミディ・ピレネー地方では百ほどのフェスティバルが開催されており、その中にはジャズ・イン・マルシアック (Festival Jazz in Marcillac)、シルヴァネス宗教音楽フェスティバル (Festival de musique sacré de Sylvanès)、トゥールーズのリオ・ロコ・フェスティバル (Festival Rio Loco) などのように世界的に有名なイベントもあります。

数字で見るミディ・ピレネー

人口： 約 290 万人	面積： 45,348 km ² フランスの地方圏で最大面積	地方圏行政中心地：トゥールーズ Toulouse 人口 447,000 人 (出所：仏国立統計経済研究所)
8 県： アリエージュ県 Ariège、アヴェロン県 Aveyron、 ジェール県 Gers、オート・ガロンヌ県 Haute-Garonne、 オート・ピレネー県 Hautes-Pyrénées、 ロット県 Lot、タルン県 Tarn、 タルン・エ・ガロンヌ県 Tarn-et-Garonne	フランス人の国内旅行先として 第3位 の観光地方 (沿岸部の地方を除く)。 ローヌ・アルプ地方、イル・ド・フランス地方に次ぐ	外国人観光客の滞在先として 第6位 の観光地方。 マーケットシェア 4.6%。
受け入れ観光客総数 1,500 万人	述べ宿泊日数 8,110 万泊	観光産業による雇用創出 44,000 人

ミディ・ピレネー観光スポット特選 (Grands Sites Midi-Pyrénées)

トゥールーズ (Toulouse)、ドウ・メール運河 (Canal des Deux Mers)、リュション (Luchon)、サン・ベルトラン・ド・コマンジュ (Saint-Bertrand-de-Comminges) — ヴァルカブレール (Valcabrère)、アリエージュ・コレクション (Collection Ariège) — ニオー (Niaux)、ル・マス・ダジル (Le Mas d'Azil)、サン・リジエ (Saint-Lizier)、フォワ (Foix)、モンセギュール (Montségur)、ミルポワ (Mirepoix) の洞窟へ、ロデズ (Rodez)、ミヨール高架橋 (Viaduc de Millau)、コンク (Conques)、ヴィルフランシュ・ド・ルエルグ (Villefranche-de-Rouergue) — ナジャック (Najac)、オーシュ (Auch)、マルシアック (Marcillac)、フララン (Flaran) — バイズ (Baise) — アルマニャック (Armagnac)、ピック・デュ・ミディ (Pic du Midi)、コートレ (Cauterets) のスペイン橋 (Pont d'Espagne)、ガヴァルニー大圏谷 (Cirque de Gavarnie)、ルルド (Lourdes)、カオール (Cahors)、ロカマドゥール (Rocamadour)、サン・シル・ラポピー (Saint-Cirq-Lapopie) — ペシュ・メルル (Pech Merle)、フィジャック (Figeac)、ドルドーニュ川流域 (Vallée de la Dordogne)、ミディ運河 (Canal du Midi) の水源があるソレーズ (Sorèze) — ルヴェル (Revel) — サン・フェレオール (Saint-Ferréol)、アルビ (Albi)、コルド・シュル・シエル (Cordes-sur-Ciel)、モワサック (Moissac)。



見どころ

ピエール・スラージュ Pierre Soulages、ロデズの「黒を超えた黒 Outrenoir」の巨匠

アヴェロン県ロデズ (Rodez) につくられたスラージュ美術館 (Musée Soulages) のオープンとともに 2014 年 5 月 31 日に開催されたイベントは、国際レベルのスケールでした。この画家の世界的に知られた才能と、現代作品の中でも最も革新的で最も力強い作品を祝ったのです。彼の生誕地であるミディ・ピレネー地方は、貴重な宝石箱として与えた素晴らしいコレクションを迎えたことへの誇りを隠しきれません。

スラージュ美術館の構想が生まれたのは 2005 年。この年、ピエール・スラージュ (Pierre Soulages) と妻のコレットが、ロデズ都市圏共同体に作品 500 点と資料を寄贈することにしたのです。4,000 万ユーロ近い評価額という寄贈は、あらゆる面で例外的といえるものでした。

コンク村 (Conques) のステンドグラス作成の準備過程の習作、版画作品の全て、紙に描かれた数多くの絵画 (クルミ塗料を用いたものを含む)、キャンバスに描かれた絵画、数多くの資料 (印刷物、カタログ、書簡など) が含まれています。このコレクションには直ちに国から「ミュゼ・ド・フランス (Musée de France)」の認証が与えられ、これに対して自治体は、屋根の上にレース状に砂岩を積み上げた鐘楼がそびえるノートルダム大聖堂のそばに、コレクションに相応しい宝石箱のような施設を建設することを決めました。スラージュ美術館のアイデアは始まったのです。唯一の条件は、ピエール・スラージュの希望によると、彼が生まれた町を豊かにする美術館は、特別展の際に他のアーティストたちの作品が展示できるように 500㎡はなければならないというものでした。

並外れたコレクション、傑出した建築

その 5 年後、2010 年 10 月 20 日、ピエール・スラージュはミディ・ピレネー観光スポット特選であるロデズ (Rodez) の中心部に礎石を置きました。建物は、2008 年に 98 の候補者から選び出された RCR アーキテクト (2012 年から王立英国建築家協会 RIBA の名誉会員) が構想した確固たる現代的な建築です。スラージュ美術館の第一の特徴は耐候性鋼ですっかり覆われたファサードにあり、赤から褐色に移るカラーのニュアンスを作り出す資材が使われています。常設展示室の面積は 2,000㎡近く、特別展のフロアは 500㎡あり、ミディ・ピレネー地方で最も広い現代芸術に与えられた建築的となりました。

ピエール・スラージュ：“私はモノグラフィ的な美術館を好きになったことは一度もありませんでした。しかし、これは他と同じような美術館にはならないでしょう。アクセントはクリエイション、作品を生み出させる方法に置かれ、とりわけ他のアーティストに対してコンテンポラリー・クリエイションに門戸を開くことになるでしょう”



Bronze I

ライフ・スペース

3ヘクタールの庭園を備えたスラージュ美術館には、ライフ・スペースとしてのコンセプトもあります。建物内には、レストラン、カフェ・プラス（ミシュランの星を持つミッシェル・プラスと息子のセバスチャンの名を付けたもので、美術館内で1日中いつでも上質な美食料理を提供）、充実した資料センター、80席のコンサートホール、ブティックがあります。

ロdezで見るべき2つのミュージアム（アヴェロン県）

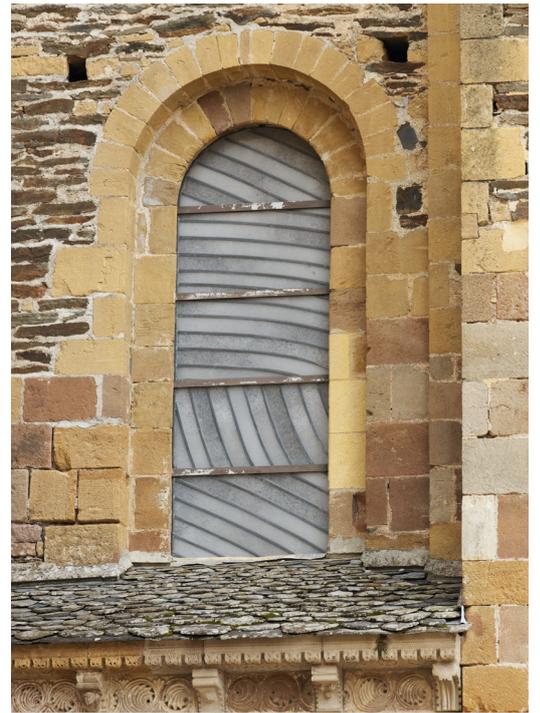
フナイユ博物館（Musée Fenaille）

ルエルグ地域の歴史・考古学博物館（Musée d'histoire et d'archéologie du Rouergue）であるフナイユ博物館は、人像を彫刻したメンヒルのコレクションを展示していますが、これはヨーロッパで特異な存在です。およそ5千年前に彫刻されたもので、西欧で知られる最も古い壮大な像であり、等身大の人間を現した初めての肖像です。特に「サン・セルナンの人（Dame de Saint-Sernin）」は、ヨーロッパ各地の大きな首都で展示されました。ここはアヴェロン文学・科学・芸術学会が170年前に博物館を創設し、千人の寄付のおかげで建築が進みました。その中に名を連ねるモーリス・フナイユ（石油業界のパイオニア、芸術愛好者）は1937年にジュエリー館（Hôtel de Jouéry）を寄贈し、ここが博物館となりました。最近の修復工事によって展示スペースは4倍に拡大しています。



ドニ・ピュエシュ美術館（Musée Denys Puech）

1903年より、アヴェロンの彫刻家ドニ・ピュエシュ（Denys Puech：1854～1942年）は、ロdezに「アヴェロン芸術の殿堂」を作るプロジェクトを考え始めました。彼は彫刻とデュサン（Dusan）の大きな寄付を町にし、さらに自らの仲間たちを冒険へと誘いました。オリエンタリズムの画家モーリス・ボンパール（Maurice Bompard：1857～1935年）と版画家ウージェンヌ・ヴィアラ（Eugène Viala：1858～1913年）は作品の一部を寄贈しています。現在のところ、展示品は、ローマ賞を受賞した第三帝政期の公認彫刻家ドニ・ピュエシュ（Denys Puech）の彫刻物がある美術館1階部分に集まっています。同美術館は現代芸術の驚くべきコレクションも展示しており、19世紀の芸術家たちとの絶えず新しい対話を誘いかけてきます。特別展、パフォーマンス、コンサート、プラスチックアートのワークショップなどもあるので、見学者たちは現代芸術のあらゆる側面を探求することができます。また、年間を通して、子どもと若者向けのイベントも企画されています。

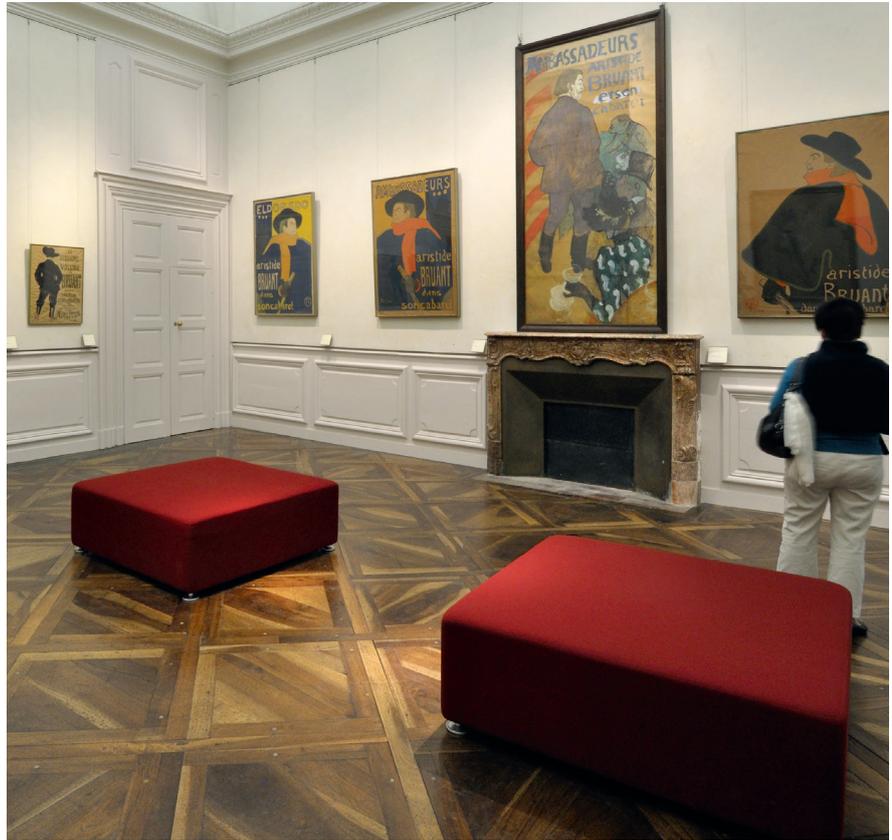


ミュージアムの始まり、コンクの冒険

スラージュ美術館の芸術的な価値を把握するには、この芸術家がコンク村（Conques）にあるロマネスク様式の大修道院に制作したステンドグラスを見ておかなければならないでしょう。ここはサンチアゴ・デ・コンポステーラ巡礼路のミディ・ピレネー地方での重要な巡礼地で、ミディ・ピレネー観光スポット特選に入っています。ピエール・スラージュは、1987年から1994年にかけて、フランス政府から依頼を受けて修道院の104枚のステンドグラスを考案したのですが、ここは思春期時代の彼に画家としての使命を生まれさせた場所だったのです。そこで彼は、光を吸収する無色のガラスを作り出します。この創作のための準備の仕事は、今日スラージュが提供する美術館の計画が上がる前に、美術館で展示されることを予感させるものでした。

展示イベントには165,000人近い来館者数：黒を超えた黒（Outrenoir）

1919年にロdezで生まれたピエール・スラージュは、現代芸術のオークション会場やマーケットで最も高い相場があるフランスのアーティストです。世界90カ所のミュージアムで展示されており、彼は国際的に認められ、際立って人気のあるアーティストとして完璧な例です。2009年にジョルジュ・ポンピドー・センター（Centre Georges Pompidou）で開かれた彼の回顧展には50万人近い来館者がありました。スラージュ美術館は、この芸術家の作品の内観を「Outrenoir（黒を超える黒）」と題した世界的な規模の展示イベントによって序幕しました。光の反射を黒の上に求めるというこの抽象的な作業が、この芸術家の名声を形成したのです。



トゥールーズ＝ロートレック (Toulouse-Lautrec) の世界へどうぞ (タルン県アルビ)

トゥールーズ＝ロートレック美術館 (Musée Toulouse-Lautrec) は、1864年にアルビ (Albi) で生まれた世紀末の画家の、世界で最も充実したコレクションを所蔵しています。油彩画、リトグラフ、デッサン、習作、トゥールーズ＝ロートレックによるポスター 31 枚などが展示されています。これらの作品はベルエポック時代のパリ、そしてモンマルトルの芸術家たちとの密接な関係から生まれたもので、この美術館では特定の枠に収まることのない作品を生み出していった特異な才能に触れることができます。このコレクション展は、アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレックの両親がからの寄贈品のおかげで充実した内容になっており、ユネスコ世界遺産に登録されているアルビ (Albi) の司教都市 (Cité épiscopale) の2大モニュメントの1つであるバルビー宮殿 (Palais de la Berbie) で1922年から公開されています。この宮殿はアルビ大司教館として使われていましたもので、サント・セシル大聖堂の近く建造された18世紀の建築物で、1905年から美術館として使われています。

最近改修工事が行われたトゥールーズ＝ロートレック美術館は、アルビの親善大使のような役割を果たしており、来館者数は毎年175,000人近くになっており、地方にある美術館としてはトップレベルの位置を占めています。

充実した所蔵を誇る美術館

古代芸術や考古学的遺物がこの美術館を充実させているほか、3階部分は近代の作品の展示スペースとなっています。この素晴らしいコレクションは、トゥールーズ＝ロートレック基金の補足となり、また20世紀前半の芸術に触れることを可能にしています。同美術館は、トゥールーズ＝ロートレックと同時代の画家たち (ゴーギャン、ドニ、ボナールなど) や、彼に影響を与えた画家たち (フォラン、ドガ)、さらにはマティス、デュフィ、ヴァン・ドンゲンのように修業時代に会った仲間たち、ブルデル、マイヨール、デスピオーなど著名な彫刻家たち、そして絵画グループ「詩的な現実 (Réalité poétique)」に属する画家たちの作品を所有しています。

ボスク城 (Château du Bosc) (アヴェロン県ノセル村)

1180年に建造されて以来、同じ一族で受け継がれてきた城があります。ここでトゥールーズ＝ロートレックは幼少時代の大半を過ごし、早熟な才能と意欲を素描で示しました。現在でも豊かな調度品があり、画家の末裔である城のオーナーのニコル・タビエ・ド・セレイランさんが見学者を受け入れています。

**アングル (Ingres) とブールデル (Bourdelle)
の作品がモントーバン (Montauban) で展示
(タルン・エ・ガロンヌ県)**

町が所有する旧の司教館 (17 世紀の建物) を使ったアングル美術館 (Musée Ingres) には、モントーバン (Montauban) が誇る偉大な 2 人に関するコレクションが所蔵されています。画家ジャン＝オーギュスト＝ドミニク・アングル (Jean-Auguste-Dominique Ingres : 1780-1867 年) や、彫刻家アントワーヌ・ブールデル (Antoine Bourdelle : 1861 ~ 1929 年) の作品です。アングルは、1835 年から 40 年までヴィラ・メディチ (ローマのフランス文化館) の館長を務めており、19 世紀が生んだ最も偉大な画家の一人です。彼が生まれた町にあるアングル美術館では、すべての作品と他に例を見ないほど充実したデッサンの所蔵に豊かさがああります。4 千を超える習作デッサンや絵画のコレクションがあり、それには偉大な作品だけではなく若い頃の作品も含まれています。ブールデル展示室は 1 階にあり、この彫刻家の作品を展示しています。デノワイエ展示室には、この現代画家の巨匠の作品を展示して、さらに見学が充実するものとなりました。

考古学と現代アートのコレクション

展示品は、美術館となっている建物の建築によっても素晴らしいものとなっています。交差リブ・ヴォールトの天井、16 世紀の暖炉、ガロ・ローマ文化と中世の建築物の遺跡物がある美しいホールがあります。地下にある黒太子の間は、百年戦争のときにイギリス人によって建てられた城の遺跡で、ガロ・ローマ時代の考古学コレクションを所蔵しています。地階は美術館の特別会場としても使われており、20 世紀後半の現代作品を展示します。

**2015 年オープン ドム・ロベール 20 世紀タピスリー美術館
(Musée Dom Robert et de la Tapisserie du XXème siècle)**

ソレーズ修道院学校 (Abbaye-école de Sorèze) のミュゼオグラフィーの見学コースで、19 世紀の生徒たちの世界への旅をすることが提案できるようになりました。興奮、歴史、感動を味わえる、驚くほどユニークな痕跡を体験するのです。有名人が使った教室から、威厳に満ちた赤の中庭の柱に刻まれた生徒たちの名前、世界中から集まった生徒たちのドミトリ、チャペルの教室など、厳しさと自由が交差しているのが感じられます。18 世紀から、ここでは革新的な教育プログラムが実施されていたのです。そしてルイ 14 世のもとでは王立軍人学校 (Ecole Royale Militaire) ともなり、その栄光は国際的なものになり、ラコルダール神父 (Père Lacordaire) の人格によって名声を持つようにもなりました。2015 年春からは、修道院学校は「ドム・ロベール 20 世紀タピスリー美術館 (Musée Dom Robert et de la tapisserie du XXème siècle)」として門戸を開けます。ドム・ロベール (Dom Robert : 1907 ~ 97 年) は、ソレーズの隣にあるドゥールヌ村のアン・カルカ修道院 (Abbaye d'En Calcat) ベネディクト会修道士でした。ジャン・リュルサ (Jean Lurçat) と出会ったのち、この下絵師の巨匠はオービュッソンのタペストリー (Tapisserie d'Aubusson) の再生に貢献したのです。色彩豊かに自然をテーマにして、そこにいる動植物を称揚しています。この新美術館は、現代的であると同時に文化遺産を尊重する精神のもとでイタリアの建築家が改造された建物 1,500m² を使用しています。タペストリーの制作において、アーティストがインスピレーションを受けた風景に注く眼差しから始まり、2009 年よりユネスコ無形文化遺産に登録されているノウハウを持つオービュッソンのタペストリー織職人の仕事を経て、それが完成作品となるまでの過程が理解できるようなミュゼオグラフィーになっています。



**アントワーヌ・ブールデル
(Antoine Bourdelle)
について**

アントワーヌ・ブールデルは、1961 年 10 月 29 日、モントーバン (Montauban) に生まれ、オーギュスト・ロダンのもとで下彫彫刻家として 20 年間働いた彫刻家・画家です。彼は教育者でもあり、彼の多くの生徒の中からはマティス、マイヨール、イッジェ、ジャコメッティ、リシエなど、世代の先駆者となった芸術家を挙げることができます。彼は「弓をひくヘラクレス」のような巨大彫刻によって国際的に評価されています。トゥールーズのヘラクレス広場には彼の作品の 1 つが展示されています。



大コレクション、 大展示会の数々

オーギュスタン美術館 (Musée des Augustins) —

トゥールーズ美術館 (Musée des beaux-arts de Toulouse)

(オート・ガロンヌ県)

地中海ゴシック様式の14世紀の建物であるオーギュスタン修道院(Couvent des Augustins)は、1793年よりトゥールーズ美術館(Musée des Beaux-arts de Toulouse)として使われています。ヴィオレ・ル・デュック(Viollet-le-Duc)の設計に基づいて整えられたロマネスク様式の柱頭があるホール、洗礼者ヨハネの殉教やノートル・ダム・ド・グラースなどの柱頭彫刻を始め数々の傑作があるゴシック様式のホール。上の階には、17世紀から19世紀までのヨーロッパ画家派の彫刻が展示され、その中にはヴィジェールブラン(Vigée-Lebrun)、ムリーリヨ(Murillo)、ドラクロワ(Delacroix)などの傑作が含まれています。

オーギュスタン美術館(Musée des Augustins)での
ホルヘ・パルド(Jorge Pardo)展 2016年5月まで

トゥールーズ国際芸術フェスティバル(FIAT: Festival international d'Art de Toulouse)とオーギュスタン美術館は、建築と芸術とデッサンを繋ぐ介在人としてホルヘ・パルド(Jorge Pardo)に参加を呼びかけました。同プロジェクトは、美術館の中にある柱のあるホールを变身させます。ここは、トゥールーズ内で最も重要な3カ所の宗教建築物(ドラード大聖堂、サンセルナン大聖堂、サンティエヌヌ大聖堂)から移された、11世紀から12世紀の柱頭彫刻や浅浮き彫り彫刻が残る柱がある場所。才能ある現代アーティストの熱気とロマネスク様式彫刻の芸術が出会い驚くべき場所になります。

www.augustins.org

アセザ館(Hôtel d'Assézat)のバンベルグ財団美術館(Fondation Bemberg)

(オート・ガロンヌ県トゥールーズ)

ルネサンス様式の至宝、美しいアセザ館に1995年に設置されたバンベルグ財団は素晴らしい宝の山を持っています。アルゼンチン人のメセナとなったジョルジュ・バンベルグがコレクションを保管するために創設し、中世末期から20世紀までの芸術をたどるコースに沿って歩くことを提案します。2階は、ルネサンスと18世紀のエスプリで作られており、調度品や芸術品を眺めるサロンになっています。3階は印象派とポスト印象派の展示で、そこにはピエール・ボナール(Pierre Bonnard)に捧げられた特別屋で、充実した内容で2枚の自画像があります。

フララン修道院(Abbaye de Flaran)

でのシモノフ(Simonow)コレクション

(ジェール県)

1151年に建立されたフララン修道院(Abbaye de Flaran)はフランス南西部で最も保存状態が良いシトー派修道院です。バイズやアルマニャックとともにミディ・ピレネー観光スポット特選となっているフララン修道院は、国から歴史的建造物の指定を受けており、シモノフの見事なコレクションを所蔵しています。このアングロサクソンの大金持ちの慈善家は、この豪華な建物に魅せられ、彼の想像を絶するコレクションを貸与することにしました。16世紀から20世紀にかけてのヨーロッパ芸術を体表する巨匠たちのオリジナル作品が含まれているという見事なコレクションです。



特別展: 動物や巨獣(Animaux et chimères...) シモノフ・コレクションからシモノフ・コレクションの新しい陳列は、馴染みがあるから奇妙なものまで、あらゆる種類の動物を展示することにあります。ティエポロ(Tiepolo)、トロワイヨン(Troyon)、ボヌール(Bonheur)、ヴァラドン(Valadon)、ダリ(Dali)、ラスコースキー(Ruszkowski)たちによって想像されたものもあります。僧侶の共同大寝室(Dortoir des moines)にて2015年5月まで。

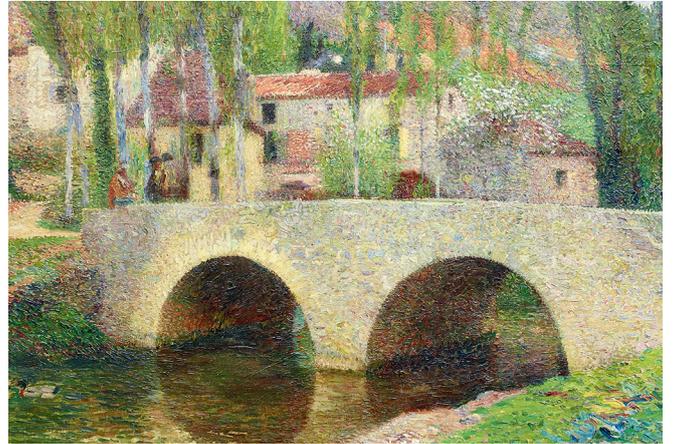


ジャコバン美術館 (Musée des Jacobins) (ジュール県オーシュ)

ジャコバン美術館は、コロンブスの大陸発見以前の芸術 (Art précolombien) の豊かなコレクションとして知られています (パリのケ・ブランリー美術館 (Musée du Quai Branly) に次いで第2位)。19世紀から20世紀にかけてのジュール県のアーティストの作品を展示しています。光の観察に導かれたジャン＝ルイ・ロメゲール (Jean-Louis Rouméguère)、1925年にジュール県に住んだイタリアの画家マリオ・カヴァリエリ (Mario Cavaglieri) など。

アンリ・マルタン美術館 (Musée Henri Martin) (ロット県カオール)

トゥールーズ生まれのアンリ・マルタン (Henri Martin : 1860 ~ 1943 年) は、ル・キャピトル (トゥールーズ市庁舎) のために描いた「刈り取る人 Faucheurs」の大きなトリプティカで有名になりました。ドラクワフの弟子、ロダンの友人であったアンリ・マルタンは、ネオ印象派の影響のもとに作品を描いています。パリに住んだが、ルーツに立ちかえるため、頻繁にロット県のラヴァステイド・デュ・ヴェール村 (Labastide-du-Vert) にある屋敷に帰ってきていました。アンリ・マルタン美術館は、ミディ・ピレネー観光スポット特選となっている旧カオール司祭館 (Ancien palais épiscopal de Cahors) を使って 1833 年に創設され、同画家の作品のほか、考古学、民族誌学、歴史、美術に関係する大きなコレクションも所蔵しています。



ザッキン・アトリエ美術館 (Atelier-Musée ZADKINE) (ロット県レザルク村)

1890年にロシアで生まれたオシップ・ザッキン (Ossip Zadkine) は、傑作を幾つも制作したロット県にある自分の家に特別な愛着を常に持っていました。ザッキンは主に 20 世紀彫刻を曲彫としていますが、多感な力で常に魅了する彫刻全体が彼の原点となっています。レザルク村 (Les Arques) には、5つの大きな彫刻があり、ザッキン・アトリエ美術館では、彼の最も貴重な作品とされる幾つかの作品を展示しています。



ジャン・リュルサ・アトリエ美術館 (Atelier-musée Jean Lurçat) (ロット県サン・セレ村)

ジャン・リュルサが 1945 年にサン・ローラン・レ・トゥールを入手したのは突然の決断でした。1966年に亡くなるまで、彼は現代創作の中心に身を置こうと決心した彼は、ここをタペストリー芸術に新しい息吹を与える場として没頭していました。現代タペストリーの粋を集めた彼の代表作「世界の歌 (Le Chant du Monde)」を創作したのもここでした。ジャン・リュルサ・アトリエ美術館は、彼の妻シモーヌ・リュルサがロット県に寄贈した見事なコレクション (タペストリー、下絵、絵画、グワッシュ、セラミック、織物、調度品) を展示しています。



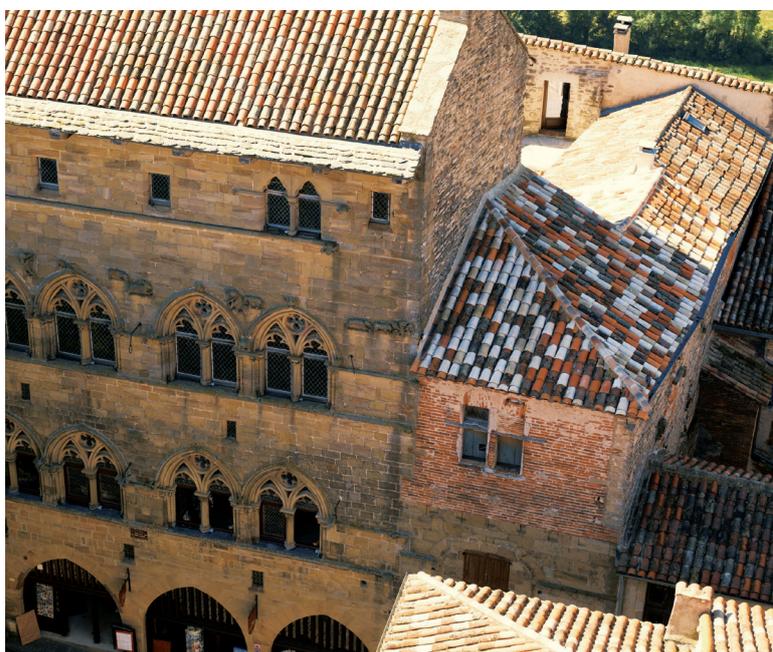


ゴヤ美術館 (Musée Goya) (タルン県カルトル)

旧カルトル司祭館(17世紀の建築物)は、ヴェルサイユ宮殿の建築家だったジュール・アルドゥアン＝マンサールが設計しています。そこを集められているスペインの傑作コレクションは、質の高さの上ではルーヴル美術館に次ぐとされています。コレクションの充実ぶりは、スペイン的使命感でブリギブルが1894年に町に与えられた寄贈品によるものです。画家でありコレクターでもあったマルセル・ブリギブル(Marcel Briguiboul)はスペインの巨匠たちの素晴らしさに感嘆し、数多くの質の高い作品を入手し、その一部がゴヤ美術館にあるのです。1949年には、ルーヴル美術館貴重なシリーズが貸与されたことにも、同美術館のスペシャリティを確認するものと言えるでしょう。それ以来、カルトルにある美術館は所蔵品を増加しております。特にここ20年ほどの間には、古代から20世紀までのスペインの作品を鑑賞する上の基準ともなり、この分野では比類ない場となりました。

近代・現代美術館 Musée d'art moderne et contemporain (タルン県コルド・シュル・シエル村)

コルドにあるこの美術館は、国から歴史的建造物として指定されてグラン・フォーコニエ館(Maison du Grand Fauconnier)を使用しているため、ミディ・ピレネー観光スポット特選としての歴史的文化遺産と、芸術の創作の出会いの場となっています。美術館のコレクションで、20世紀の芸術、特にコルドの町に20点ほどの作品(静物画、風景画、タペストリー)を寄付した具象的画家イヴ・ブレエ(Yves Brayer: 1907～90年)の仕事を鑑賞することができます。



コンテンポラリー・アート、 明日のアート

レ・ザバトワール (Les Abatoirs) : トゥールーズ近代・現代美術館 (オート・ガロンヌ県)



このモダンアートと現代アートのセンターは、2000年にレザバトワール(屠畜場)を修復して生まれ変わりました。この昔の工業地は、今日では数々の特別展が行われているのです。コレクションの一部は、ダニエル・コルディエ(第二次世界大戦中にはジャン・ムーランの秘書、絵画販売者、コレクター)、コレクターのアントニー・ドゥネラからなされた寄贈品であり、20世紀の主要な芸術の流れに触れることができます。抒情的抽象、コブラ新芸術運動、アウトサイダー・アートの作品が、パブロ・ピカソ(Pablo Picasso)が1936年に描いた「道化師の衣装を纏ったミノタウロスの遺体(La dépouille du Minotaure en costume d'arlequin)」を象徴的な作品として舞台スクリーンの周りに集められています。

トゥールーズ・ネットワーク

トゥールーズの舞台は、熱狂とともに、現代アートのための数多くの会場を持ちます。

BBB アートセンター (Centre d'Art BBB) :

BBBは、20年前から、プラスチックアートとヴィジュアルアートの分野でアーティストたちが参加したり才能を示したりできる機会を与えるために、展覧会、宿泊施設、仲介アクティビティを増加させています。BBBのリソース・プラットフォームは、アーティストたちの受け入れ、研修、協力などを行っています。

共有の場 (Lieu-Commun)

トゥールーズの現代アートの3つの組織(ALaPlage、Annexia、VolkSystem)が発案したPlan-9計画で誕生した共有の場(Lieu-Commun)は、コンテンポラリー作品の普及と制作を主要な用途としています。この大きな工業スペースは、ボンヌフォワ地区にあり、現在のクリエイションに注目しています。ヴィジュアルアート、最新メディア、デザイン、建築に、革新的でポピュラーな音楽が、多様で充実したプログラムに組み込まれています。

現代アートのためのエスパス・エキュロイユ基金

(Fondation Espace Ecuireuil pour l'Art contemporain)

キャピトル広場(Place du Capitole)に設置された企業基金エスパス・エキュロイユ(Espace Ecuireuil)は、トゥールーズの中心部にある現代アートを発信する場として、メイドイン・アジア・フェスティバル(Festivals Made in Asia)やトゥールーズ国際芸術フェスティバル(Festival international d'art de Toulouse)をはじめとする特別展などに使われています。エスパス・エキュロイユはミディ・ピレネー貯蓄銀行がメセナとなっています。

FIAT

2013年、プランタン・ド・セプタンブル:9月の春(Printemps de Septembre)がトゥールーズ国際芸術フェスティバル(Festival International d'Art de Toulouse)として多彩な現代創作のフェスティバルとなりました。壮大なクリエイション(ビデオ、彫刻、グラフィックアートなど)、驚くような写真の展覧会、奇異を放つ芸術的なパフォーマンス、それらが開催地によって9月にリズムカルな躍動を与えます。イベントはトゥールーズの魅力的な建築物な数々(レ・ザバトワール、ジャコバン修道院の食堂、サン・ジャック施療院、水道塔のギャラリーなど)を使い、現代の国際舞台の主要技術化に新進芸術家も加えて結集させます。今後は2年毎、奇数年に開催されるでしょう。

パヴィヨン・ブラン (Pavillon Blanc)

ーコロミエ・アート・センター (Centre d'Art de Colomiers) (オート・ガロンヌ県)

パヴィヨン・ブランは、展示センターとアーティスト宿泊施設で、世界的に名高い建築家であるルーディー・リッチオッティ (マルセイユの地中海博物館 MuCEM が有名) による建築であるために見事な施設となっています。そこにはミディ・ピレネー地方ではパイオニアの1つに数えられるコロミエの現代アート自治体基金の事務所も入っています。

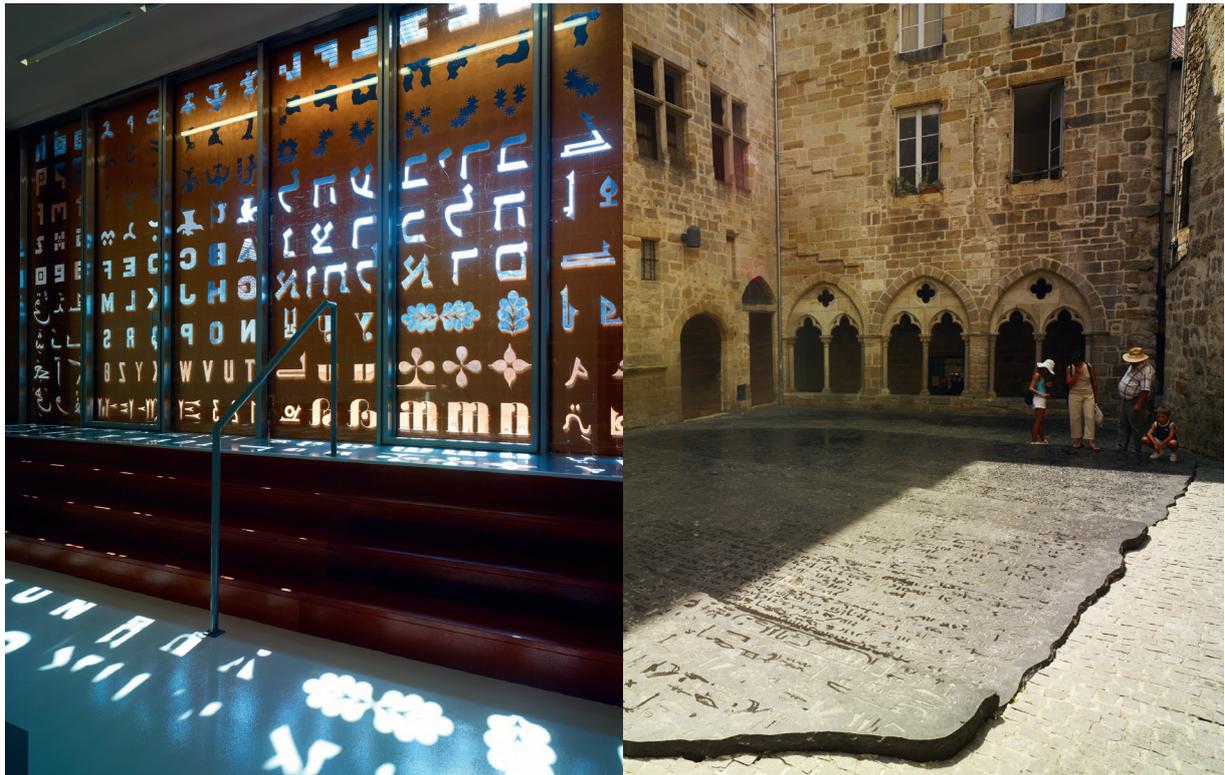
ジオルジュ・ポンピドゥー美術館 (Maison des Arts Georges Pompidou)

(ロット県カジャール村)

政治家であるとともに芸術にも造詣が深かったジオルジュ・ポンピドゥー(Georges Pompidou) は、保養地としてカジャール村(Cajarc)を選んでいました。そのメモリアルとして、妻クロード・ポンピドゥーと彼の友人たちは、ロット川流域にアートセンターを築きたいと思ったのです。この現代アートセンターは、特別展と毎年行われる会合の場として使われています。ロット川流域地域の現代アート周遊コースでは、アートセンターから、この地域にある村々を通してメゾン・ドーマ (Maisons Daura) まで続いています。アート館 (Maison des Arts) はサン・シル・ラポピー村 (Saint-Cirq-Lapopie) にあるメゾン・ドーマのアーティスト宿泊施設も運営しています。

エクリチュール広場 (Place des Écritures) (ロット県フィジャック)

必見。世界のエクリチュール (文字法) 博物館 (Musée des Ecritures du Monde) となっているシャンポリオン (Champollion) の生家の足元には、コンセプチュアルアートにおいてアメリカのパイオニアであるジョセフ・コースス (Joseph Kosuth) による大きな花崗岩の敷石があります。地面に再現してあるロゼッタストーンの上を歩くことができ、この作品は言語と芸術の関係を考えさせられる芸術家の探求の仕事を追い求めています。そして、シャンポリオンの冒険の跡をたどり、古代と同様に現代の科学において書かれた文字というものの位置を解読する美術館を見学するようにと誘っているのです。





楽しみましょう:

AFIAC – フィアック村で現代的 パフォーマンス (タルン県)

小さな村フィアック (Fiac) では、毎年6月、そこにある家々や住民たちを舞台にして、現実離れた現代アート・フェスティバルが展開します。村に住む10世帯が現代アーティスト10人を迎えるという珍しい企画なのです。住居は創作の場となり、6月最後の週末の3日間はアーティストたちがいる発表の場となります。

LAIT アートセンター (Centre d'art le LAIT) (タルン県アルビ)

LAIT アートセンターの LAIT は、タルン県国際芸術ラボラトリー (Laboratoire Artistique International du Tarn) のアブリヴィエーションで、現代クリエーションとその変形を探求するラボラトリーです。新進気鋭のクリエイターと、30年ほど前から国際的に評価されているアーティストを迎えています。

ネグレプリスの料理 (タルン・エ・ガロンヌ県)

ネグレプリス町では、町が所有する18世紀城を素晴らしい美術・デザイン・センター (Centre d'Art et de Design) を「料理 (La Cuisine)」の宝宝箱として利用することにしました。ロデズのスラージュ美術館 (Musée Soulages) の建築でも採用されたカタルーニャ地域の名高い建築事務所 RCR が、城の廃墟と現代的な素材を使った新建築と組み合わせるという作品を実現するために選ばれました。この独創的で革新的な場は、現代芸術創作を美食に対する貪欲のように発揮するというものなのです。「料理」というのは、食べ物、食の慣習、テーブルアートに関するテーマを扱っているからです。料理の芸術と味わいを通じた見学は、特に子供連れの家族に向けたものとなっています。



ボーリュウ・アン・ルエルグ修道院 (Abbaye de Beaulieu-en-Rouergue) (タルン・エ・ガロンヌ県ジナルス村)

ボーリュウ・アン・ルエルグ修道院は、10年にわたる修復工事を経て、1970年に、ミディ・ピレネー地方で初の現代アートセンターとなりました。13世紀に建てられたシトー派修道院で、フランス文化財センターが管理しています。現代アートの展覧会、戦後美術のコレクションの作品の展示が行われています。



アーティストのための宿泊施設

カーサ・ドーロ (Caza d'Oro) (アリエージュ県レ・マス・ダジル村)

宿泊施設と創作の国際的な施設で、その独創性において定評を得ています。レ・マス・ダジル村 (Le Mas d'Azil) の歴史が残る中心地にある民家を使ったもので、第一の使命はプラスチックアートの芸術家たちが仕事をすることができるようにすることにあります。芸術家たちは滞在する間に (1~3カ月)、先史時代に始まった豊かな文化遺産に浸ることができます。

レザルクのアトリエ (Les Ateliers des Arques) (ロット県)

このアーティストのための宿泊施設は、ザッキン美術館 (Musée Zadkine) がある村として名高いレザルク村 (Les Arques) の名を持っており、5件の民家と4つのアトリエからなっています。10人ほどのアーティストたちには、制作に励みながら仕事を周知させるには理想的な場となります。

メゾン・ドーマ (Maisons Daura) (ロット県サン・シル・ラポピー村)

ミディ・ピレネー観光スポット特選、サン・シル・ラポピー村 (Saint-Cirq-Lapopie) は芸術の大家、特にシュールリアリスト (アンドレ・ブルトン (André Breton)、ジュリアン・グラック (Julien Gracq)、マン・レイ (Man Ray) など) が頻りに訪れた地として知られています。カタルーニャの画家ピエール・ドーマ (Pierre Daura) が所有していた13世紀の見事な屋敷が、今日ではアーティストたちの国際宿泊施設となっています。

Comité Régional du Tourisme
15 rue Rivals - CS 78543
31685 Toulouse cedex 6
Tél. : 05 61 13 55 21

www.tourisme-midi-pyrenees.com

Share with us



LANGUEDOC
ROUSSILLON
LA RÉGION MIDI
PYRÉNÉES

Action réalisée par le Comité Régional
du Tourisme Midi-Pyrénées.

www.tourisme-midi-pyrenees.com

Musee Ingres - Midi-Pyrenees @DViezi / © Phoebe Meyer / Musee Soulagès - Rodez - ©Gaston Bergeret / ©CDT-Aveyron / Musee Toulouse-Lautrec- Albi - ©Francois Pons / Musee des Augustins@Jose-Manuel Herrador / Fondation Bemberg / @FNin / @Musee Henri Martin / Musee Zadkine / - ©Conseil General du Lot / Musee Lurcat / @Conseil General du Lot / @MAGP-25 / Musee Goya @Ville de Toulouse / Abbattoirs @Ville de Toulouse / Cuisine experimentale @FCR-Architectes / @Marc Damage / © K. Lhemon / © J.L. Sarda-abbaye-école-Encaicat